

第11回外部有識者会議 議事要旨

(開催要領)

- 1.開催日時:2006年7月19日(10:00~12:00)
- 2.場 所:(株)整理回収機構 大手町本部
- 3.出席者:

外部有識者会議委員(五十音順)

井上裕之

片田哲也

成田正路

松下淳一

吉岡睦子

(株)整理回収機構からの出席者

社長 奥野善彦

社長代行 志田康雄

専務取締役 福田博志

専務取締役 緒方右武

専務取締役 橋本 聡

専務取締役 富高正信

常勤監査役 重成 侃

常勤監査役 藤田重則

常務執行役員 山川隆久

業務企画部長 高橋信裕

預金保険機構からの出席者

理事 長島 裕

総務部管理課課長 曲淵敏弘

. 第 10 回会議議事録 承認

. 外部有識者会議のとりまとめについて

- ・外部有識者会議とりまとめ(案)について

. 委員からの発言

RCC から今回のテーマ(「外部有識者会議のとりまとめについて」)について説明した後に、以下のような意見や質疑応答があった。

外部有識者会議のとりまとめについて

(RCC) 本会議は、当社の業務について、外部有識者による適時適切な助言等を頂くことにより、健全かつ適切な業務運営を確保し、当社の業務運営に対する一層の信頼を確立することを目的として設けられ、各種テーマについて当社側から説明した上で、各委員よりご意見等を頂いてきた。

委員からの発言あるいは、委員とRCC側出席者との質疑応答の中で出された主な論点を整理すると以下のとおりである。

1. RCCの業務運営全般について
2. RCCの回収業務について
3. RCCの再生業務について
4. RCCの組織の問題について
5. 関与者責任追及と刑事告発について
6. 法令等遵守と業務改善計画について

最終的には、総括として、当社の今後の在り方という点についても整理し、今後の業務運営の指針とし对外公表もしたいと考えている。

(委員) 設立当初は、容赦なき回収を行うというのが大きな課題であったが、時代の流れの中で役割が変わってきたというようなことはとても大切なことだと思う。

とりまとめにあたっては、目的・対象は何なのかということ再度考え、わ

かり易い要約版を作成するのがよいのではないか。最初から莫大な資料を読むのは大変だろうから、要約版を読み興味を持った人が議事録等の資料を見るという流れにした方が良いかもしれない。

(委員) 回収と再生の関係については、外部に、回収が難しい先を先送りするために再生と称しているいろいろ対応するのではないかというような印象を与えているかもしれないので、その辺りについても触れた方が良い。

(RCC) 回収が本来の職務であり、創意・工夫により正常債権化することが最大の回収につながる。回収の最大化が再生だと考えている。地域金融機関から企業をできるだけ再生させてほしいとの要請もある。

(委員) RCCは株式会社でありながら、法令上・社会的・政治的に与えられた唯一無二の役割がある。学校・病院等民間では取り扱い困難な案件を苦勞しながら取り扱っているということをもっと強調した方が良い。

特定業種とか反社会的勢力に関する事案をとおり、社会的正義を実現する役割も果たしている。

容赦ない回収をしているわけではないという点では、『人間の尊厳の確保』と『契約の拘束性の追求』というバランスを取っているというのを理念のみならず具体例をあげて説明する等検討しては如何か。

組織としてどういうところに力点を置き、今後どういう方向を目指しているのかということの本会議での議論を総括した内容を踏まえて明らかにするような工夫をすべき。

(RCC) 10月にこれまでの変遷を記した『10年史』の発行を予定している。また、『債権回収最前線』という一般の人が読み易い書物の出版計画もあり、この外部有識者会議とりまとめと合わせ3つのものが同時に世の中に出る予定である。